



まきび通信

校訓：夢へ みんなで まっすぐに

岡山県立倉敷まきび支援学校

学 校 だ よ り

令和6年度10月号



【まびふれあい公園への避難訓練】

9月19日(木)に倉敷市や地域と連携して、大規模地震を想定し、まびふれあい公園への避難訓練を行いました。とても暑い日でしたので、小学部4年生から高等部3年生までの児童生徒と教職員、地域の方々約350人が真剣な表情で避難の対応や経路を確認しました。7月6日に開園したまびふれあい公園(復興防災公園)を使った訓練は初めてでした。児童生徒らは、静かに学校から約500メートルの位置にある公園へと移動しました。能登半島地震のこともあり、教職員は、隆起する可能性のあるマンホールや水路の近くの液状化するかもしれない箇所をチェックしながら避難を行いました。開始から18分で完了し、倉敷市防災推進課の方から「落ち着いて行動できていた」と講評をいただきました。地域の方々からは、「地域の人は、避難に車を使う。歩いて避難する児童生徒の安全な避難誘導が必要になるので、一緒に避難計画を検討しましょう」と今後に向けての助言をいただきました。



避難訓練の後、高等部の生徒は公園の説明を受け、「避難してきた人のために、どんなボランティアができると思いますか?」というアンケートをしました。「食事や水の配膳」「案内係」「ペットの居場所作り」「不安になっている人を助ける」…たくさんの嬉しい意見がありました。災害時に、倉敷まきび支援学校を含めた箭田地区すべての方々の安全・安心・命を守る行動に取り組んでいきたいと思います。

(校長 金島 一顯)

第1回 まきびカフェ 開催しました

予定していた7月1日が休校となり、延期していた「第1回まきびカフェ」を9月18(水)に開催することができました。当日は、14名の方に参加していただきました。三つのグループに分かれて、「好きなこと」「好きな食べ物」など興味関心があることについて共有しながら自己紹介を行った後、日頃の悩みや知っておきたいこと等について、総社市の就労継続支援B型事業所「まーる」様(本校卒業生も来てくれました)の入れてくださったおいしいコーヒーを飲みながら語り合いました。

小学部の保護者の方からは、

- ・トイレの自立に向けて、どうしたらいいか。
- ・気に入らないと人や物にあたる、自傷行為、水への執着、車で暴れる等、止めさせたいことが多くある。
- ・将来の生活に不安がある。

などのお話が出ました。高等部の保護者の方からは、

- ・異性に興味が出てきた。
- ・卒業後しっかり働くことができるのか。
- ・親亡き後、どうなっていくのか。

など、将来の不安についてのお話がありました。ペアレントサポートすてっぷの方、真備地域生活支援センターの方、本校の進路担当がグループに入って一緒に相談していく中で、少しずつ悩みの解決に向かった話ができたとします。すぐに解決しづらいことも多いけれど、今回のような語り合う場を大切にして、思いを分かち合いながら子どもたちと前向きに生活していきたいと思いました。

(指導教諭 田原 豊久)



まーる